

SAAJ 日本システム監査人協会報

第一回分科会発表会特集号

会員有志によるシステム監査事例研究、セキュリティ監査、監査の技法・手法の各分科会が発足して一年半が経過した。着実に回を重ねた活動の成果を広く会員に発表する第一回の分科会発表会が平成3年1月19日千代田区永田町の社会文化会館で開催された。当日は約60名が参加し各分科会の発表に対して活発な質疑応答が行われた。発表会終了後懇親会がもたれ新入会員の紹介や近況報告等盛況のうちに終了した。

各分科会の発表者は以下の通り（敬称略）

「システム監査事例研究」…吉川正、鍋島義朗、

小坂志郎、荒川幸式

「セキュリティ監査」…金子長男

「監査の技法・手法」…木村裕一

なお、発表会の模様はビデオに収録されている。（請求等については、別途連絡する）また今回は発表会当日に参加者のみに配布した資料も小冊子して送付する。

『システム監査事例研究』分科会

【発表要旨】

1. 活動経過

1989年6月21日発足。メンバー18名。

定例開催日 毎月第2火曜日。

於虎ノ門琴平会館2階会議室

1年半、18回の分科会のうち、大半の14回を費いやし、事例研究として模擬監査を行った。監査対象システムとしては、ある分科会メンバーのお申し出により、その方の所管するコンピュータ室のシステムを採り上げた。

2. 事例研究「M社の販売管理システムの監査」

(1) システム監査の概要

「EDPシステムの内部統制質問書（日本公認会計士協会、昭和55年12月8日）」に基づき、ヒアリング及び関係資料のコ



説明する吉川氏

ピーの提出を受け、分科会メンバーでディスカッション。その後、メンバーが項目を分担して「個別意見要約調書」を作成した。但し、「安全統制」の項目は除外した。

(2) 監査対象システムの概要

システム監査人の守秘義務との絡みもあり発表会では下記についてのみ公表。

① 組織と要員

第1グループ 社員7名、外注19名

第2グループ 社員4名、外注2名

どちらのグループもソフト開発とオペレーションは非分離。

② 情報システムの概要

ハードウェア 中型コンピュータ

端末台数 186台

プログラム本数 オンライン 970本

バッチ 4,300本

データ処理件数 189万件/月

(3.3件/秒)

(3) システム監査報告書

50～60枚の個別意見要約調書に基づき、3チームに分れて報告書を作成。

三者三様の報告書となったので、3チーム各々の代表が以下の発表を行った。

① Aチーム（信頼性を中心にまとめ）

監査法人の監査報告書としても使用で

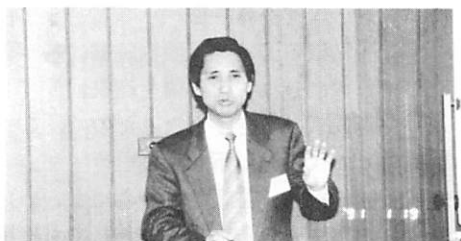
きそうな様式とOHPを用い、迫力のある発表。

「総合意見」の中に「推奨事項」も記載し、誉めることも忘れていない。

主な改善勧告としては、

- ① 内部統制機能の改善（データ訂正、開発・保守グループと運用グループの分離、端末からの不正入力に対する統制強化など）
- ② システム開発標準の確立
- ② Bチーム（安全性を中心にとりまとめ）
通産の「システム監査基準解説書」の様式例に拠って報告書作成。「主要指摘事項」に重点が置かれ、内部監査向き。ほめ言葉なし。主な改善勧告としては、
 - ① システム開発と運用の分離
 - ② システムの企画・開発・運用のレビュー・承認ルールの確立
 - ③ システム間の整合性確保
 - ④ データの直接訂正の禁止
 - ⑤ オンライン端末からの入力データの管理徹底
- ③ Cチーム（効率性を中心にとりまとめ）
A4横型の用紙に大きめの文字で記載されており、機器メーカーなどが経営者にリコメンドするのに適している。「指摘項目」が全て「……が望ましい。」という表現になっているのも特色である。
また「監査結果」においても一旦誉めたりえで、「しかし……」として「改善項目」を導いている。主な改善項目は、
 - ① 標準化の促進
 - ② 費用対効果の評価制度の確立

(吉川 正)



説明する鍋島、小坂、荒川の各氏
(左下から)

【感想】

システム監査の試験に合格しても、職場も業務もシステム監査に縁のない者にとって、監査事例について勉強できる機会はほとんどありません。

事例研究会は、常々、是非とも出席して先輩方の指導を受けたいと願っているのですが、セカンドシフトのため機会がなく、今回の発表会に出席できてとてもうれしく思います。特に、具体的な「監査報告書」を見ることができ、将来システム監査を行う機会があれば是非とも参考にしたいと考えています。

ただ、私は本質的にSEのようで、事例研究会の発表を聴いて最初に感じたことは、よいSEにとってシステム監査の実際は、以外と身近なものだということです。よいSEとは、私見ですが、日常の業務の過程で常に「理想」を描き、それと「現状」とのギャップを認識し解決案を考えているSEのことです。

新しいシステムを提案するときは、現状のシステムを調査して経営的視点から検討・評価した「効率性の監査報告書」をつけた企画書が必要になります。(荒川氏の発表の「トップに報告する場合のハウツウ」は非常に参考になりま

した。)また、システムの設計におけるデザインレビューでは、正確性、安全性のチェックを行います。ですから、日々の業務の中でも研鑽に励みたいとおもいます。

もちろん、監査は第3者が行うものですから、当事者でも把握しきれないシステム全容をどう監査するか、その技法は日々の業務では得ることはできません。報告書では、「インタビュー、資料の収集」とほんの数行で記述されていますが・・・。そのような調査の勘所を経験者の体験を交えて教えていただけたらいいと思います。

また、SEが「監査のしやすいシステムを」作ることができるように、システム監査のときに必要な資料や記録の標準的な項目や様式を取り決めることができればいいと思いますが、どうでしょうか。(羽出山里江)

『セキュリティ監査』分科会

【発表要旨】

1. 活動経過

平成元年6月に初会合に持って以来、今日まで16回の会合を開催した。企業訪問を2回実施し、最新のセキュリティ設備を見学した。その他は、通産省安全対策実施事業所認定制度設備編解説書(黄本)を輪読し、セキュリティに関してそれぞれ会員の経験談を中心に、討論、意見交換を行った。また西ドイツハッカー事件についてのアメリカ議会公聴会資料を手配しているが、前段の一部は届いているものの、公聴会審議資料はまだである。

現在の会員数は9名である。

2. 通産省安全対策認定制度について

- (1) 認定制度の概要
- (2) 認定制度の手続き
- (3) 認定制度規程の概要



説明する金子氏

3. 認定制度の実際例

- (1) 計算センターの事例 2例
- (2) 磁気テープ等の保管サービスセンターの事例

4. 安全対策基準に関する会員の意見

- (1) 必要性について
- (2) 基準内容について
- (3) 認定制度について
- (4) 今後に望むこと

5. 見学企業に対する感想

セキュリティの達成レベルは、予想外に高かったが、出入管理のルーズさ等が散見された。

安全対策基準を達成するためには設備、運用面で多大な負担をしなければならないことを再認識した。今後は働く者の立場に立った環境整備が必要であろう。

6. まとめ

認定制度解説書の輪読は、安全対策に関してコンピュータだけでなく、本当に広範囲の知識が必要であることと、またそれが実際に必要であることを知ることができ大変有意義であった。システム監査についても、設備面、それを扱う人間のことも含めてトータル的に捉える必要があると改めて感じた。

他社のコンピュータルーム、設備を見学、意見交換するという機会は中々ないので大変有意義であった。

当協会としても、セキュリティに対する必要性など、広く普及啓蒙活動を今後とも積極的に進めるべきであろう。

【感想】

第1回分科会発表会において、事例研究会、技法・手法分科会に続いて、セキュリティ監査分科会の活動報告を聞いた。報告内容については、当日配布資料に良くまとめられているが、当日出席されなかった方もいらっしゃるので、内容も含めて個人的感想を述べたい。余談ですが、発表会等に参加できなかった人のために、資料を希望者に配布できれば役立つと考えます。

活動経過に続いて、通産省安全対策認定制度の説明があった。私自身セキュリティに興味を

持って勉強していたのは昭和58年頃だったため、その後の動きについて参考になった。情報処理サービス業電子計算機システム安全対策実施事業所認定制度の方は、ユーザの情報処理部門を担当している我々SEにとっては、若干異なる世界である。平成2年末の認定事業所数が169事業所と聞くと、数多くの情報処理システムの中では、まだまだ少数派であると考えしやう。しかし、他人のデータを預かるが故のセキュリティ・レベルについては、参考とすることも多い。

認定制度の実際例は、実際の施設の写真等も含め興味深かった。見学企業に対する感想の中にもあったが、セキュリティ設備とこれを利用する人間の精神上的の問題との整合性が今後問題となってくると考える。働きがいの無い職場は、労働者から見離され、モラルも低下してしまう。情報処理産業は是非そうならないようにと祈っている。

安全対策基準に関する会員の意見にもあったが、基準項目の相互関連の理解が解説書のみでは理解が難しいのであれば、解説書の解説書を作成すれば（輪読会で話題となったことのメモでもいいと思いますが）会員全体に役立つと考える。これらも含め、資料・出版物の協会としての収集・会報での通知・貸し出しをすれば良いと考えます。（林 孝次）

『監査の技法・手法』分科会

【発表要旨】

1. 活動経過

一昨年6月の発足以来17回の会合を持ち、システム監査の際に用いられる技法・手法の議論を続けてきた。技法・手法は監査証跡を得るための道具であり、技法・手法を確立すめためにはまず、監査対象及びチェック項目を明確にすることが大前提であるという認識のもと、独自の視点でパソコンを利用してチェックリストをデータベース化することと



説明する木村氏

した。現在の会員数は9名。

2. チェックリストDBの構築

既存のチェック項目をカード型DBに入れ、ソフトウェアのライフサイクルとコントロールの視点から分類し、ツール、方法論、監査証跡、留意点、対象業務、オンライン種別、対象機種、プロジェクト規模についての記述を行う。

将来的にはパブリック・ドメインのデータベースとして、会員に公開する予定である。

【感想】

「チェックリストDBの構築」というテーマは、本分科回の初回テーマとして、次の理由により賢明な選択だったと思います。

- ① 一般論と言われるものの相場が理解でき、基本学習が可能となる。
- ② パソコン用の蓄積・検索ツールが整備される。

ただ、発表会会場での質問の中にもありましたように、一般論の宿命として、汎用的すぎて実用性に欠ける面があることも認識しておく必要があると思います。本来は、実際に使って実績のあるチェック項目が蓄積されていけば実践性があるのですが、これはいわゆる企業ノウハウになるわけで、どこまでオープンにできるのかの問題も今後発生してくるのではないかと考えます。また、より具体的にしなければなるほど、与件が合わないで役立たないというジレンマも発生してくるわけで、具体例を一般化するのではなく、あくまでも事例として蓄積して

いくほうが、整備し易いのではないかと思います。

しかし、上の2点が実現することにより、本分科会のインフラストラクチャーが確立されることになるわけですから、着実に本分科会の活動実績は上がっていくと予想されます。そこで、要望が3つあります。まず第1番目は、各チェック項目に対応づけて、その裏にある管理の指針や監査の理由を含めておくべきではないかということです。よく、「管理のないところに監査はない。」などとも言われています。これら管理指針や監査理由は被監査部門の説得の際に役立つものでありますが、それ以上に、監査人が的を得た監査を実施する上で是非とも必要なもの、だと考えます。2番目は、事前に設定されたインテック検索の他に、キーワードからの検索も可能にして欲しいということです。実務面ではこの機能があるとかかなり助かるのではないかと思います。3番目は、アプリケーション内容を監査する上でのチェック項目も整備して欲しいということです。これを整備するためには企業の経済活動面の視点が必要になるわけですが、会計士の方や、ユーザー部門、開発部門の混成部隊からなる本協会の分科会ならできるとは思いませんかと期待致します。

(横田由美子)

システム監査委託モデル企業募集中

『事例研究会』では、これまでM社、N社の模擬システム監査を進めてきているが、さらに模擬システム監査を受けるモデル企業を数社募集している。費用は無料で、事例研究会のメンバーによる意見を付したシステム監査報告書が作成される。監査対象分野・日程などは事前打ち合わせによる。詳しい内容・問合せは、分科会幹事の三井情報開発部打矢隆司(0473-55-2733)まで。

分科会連絡先

各分科会に関する問い合わせ、又は入会の申し込み等は、以下の幹事まで、連絡して下さい。多くの会員の参加を希望します。

- (1) 『システム監査事例研究』分科会
 - ・三井情報開発部鉄鋼システム部 打矢隆司
TEL 0473-55-2733
 - ・昭和コンピュータシステム部 監査役
野村章 TEL 03-3280-7010
- (2) 『セキュリティ監査』分科会
 - ・(株)公営事業電子計算センター 金子長男
TEL 03-3343-4560
- (3) 『監査の技法・手法』分科会
 - ・日本レジフォンプシステムズ部 取締役
木村陽一 TEL 03-3597-7900

パソコン通信倶楽部について

NIFTY-Serveのホームパーティ機能を使って、「パソコン通信倶楽部」を運用している。SYSOP(世話人)は、会員No9の蓮見節夫氏(NIFTY-ID:MHE0226)である。

現在、常連メンバは10名程度であるが、システム監査人登録制度に関する意見交換、分科会活動報告、理事会からの連絡、会員同士の情報交換や気軽なチャット(おしゃべり)などが活発に行われている。

蓮見氏によると、今後はテーマを決めての討議を充実させたいとのこと。地方在住の方のように、東京や大阪での分科会や研究会に参加しにくい方にとって、有効な情報交換手段になるであろう。

入会希望の方は、蓮見氏へ電子メールを送付されたい(むろん、NIFTY-Serveの会員であることが前提である)。蓮見氏より、ホームパーティ用のIDとパスワードが通知される。

なお、ホームパーティとは、資格を持った人だけに公開される簡易的な電子会議室である。

平成2年度最高齢合格者の

秀嶋 弘行さんの紹介

これまでの合格者約1500人中、合格時年齢の最高、発表にあたり、担当者が「大正12年生まれは昭和のまちがいで」と問い合わせてきたという。

四年前、常勤監査役になった際、「コンピューター・システムを熟知しないと、経営戦略的な要素も持った監査は十分行えない」と痛感して「ぼけ防止も兼ねて」頭脳磨きを始めた。

「勉強は趣味の延長、試験はゲーム感覚で」をモットーに取り組んできたが、二年連続不合格。「こうなったら真剣勝負だ」と燃えた。この2年間は通信講座を受け、ポイントどころでは上京してスクーリングも。

「海岸報道でもわかるように今や、遠い戦場の映像がリアルタイムで世界に届く時代。私も放送人としてこうした科学技術の進歩に遅れないよう懸命に勉強してきましたが、そのスピードに目を見張るばかり」

こうした技術進歩への驚きとその進歩を支えるコンピュータへの関心が、チャレンジ精神を常にかかりたててきた。

(毎日新聞平成2年2月28日朝刊から引用)

香川県生まれ。昭和28年九州大工学部卒。技術、人事畑から副社長を経て、現在常任顧問、67歳。

事務局からのお知らせ

<会費振込みのお願い>

本年度(平成3年1月1日～平成3年12月31日)の会費(正会員10,000円 準会員8,000円)を未納の方は、下記宛にお振込みください。

郵便振替口座	東京 1-352357
加入者名	日本システム監査人協会事務局
銀行振込口座	第一勧業銀行 北沢支店
	普通 1053488
口座人名	日本システム監査人協会 事務局 鈴木信夫

会費振込に際しては、必ず会員番号をご記入願います。

<住所変更について>

住所変更、所属変更等がございましたら、事務局へ書面でお知らせください。

<会員の声 募集について>

会員相互のコミュニケーションを図るため、『会員の声』を募集します。また、会報についてのご意見、ご要望もお寄せください。

この件については、会報担当宛に郵便、またはFAXでお送り下さい。

<合格者の連絡先調査のお願い>

1月末日に昨年10月に実施された第5回システム監査技術者試験の合格者が発表になりました。ついては、会員の周りで、合格者を発見(?)した時は、事務局まで至急FAX(03-3415-1388)でご連絡ください。事務局より折り返し、入会申込書を発送いたします。

発行所 日本システム監査人協会

発行人 川野 佳範

事務局

〒157 東京都世田谷区砧1-10-11

NHK放送研修センター内 鈴木 信夫

TEL.03(3415)7111(内631)FAX.03(3415)1388

※ご連絡はなるべく郵便または、FAXで
お願いします。

会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)

長野 正己 東京海上火災保険㈱財務企画部

TEL.03(3285)1637 FAX.03(3211)2430

小松原 拓 富士通㈱ 教育部

TEL.03(3735)1111 FAX.03(3730)1389

今井 純子 公認会計士今井純子事務所

TEL.03(3992)9381 FAX.03(3992)2450

波田 直登 NTTデータ通信㈱

TEL.03(3847)8996 FAX.03(3847)8999